特64-656
1200800265614

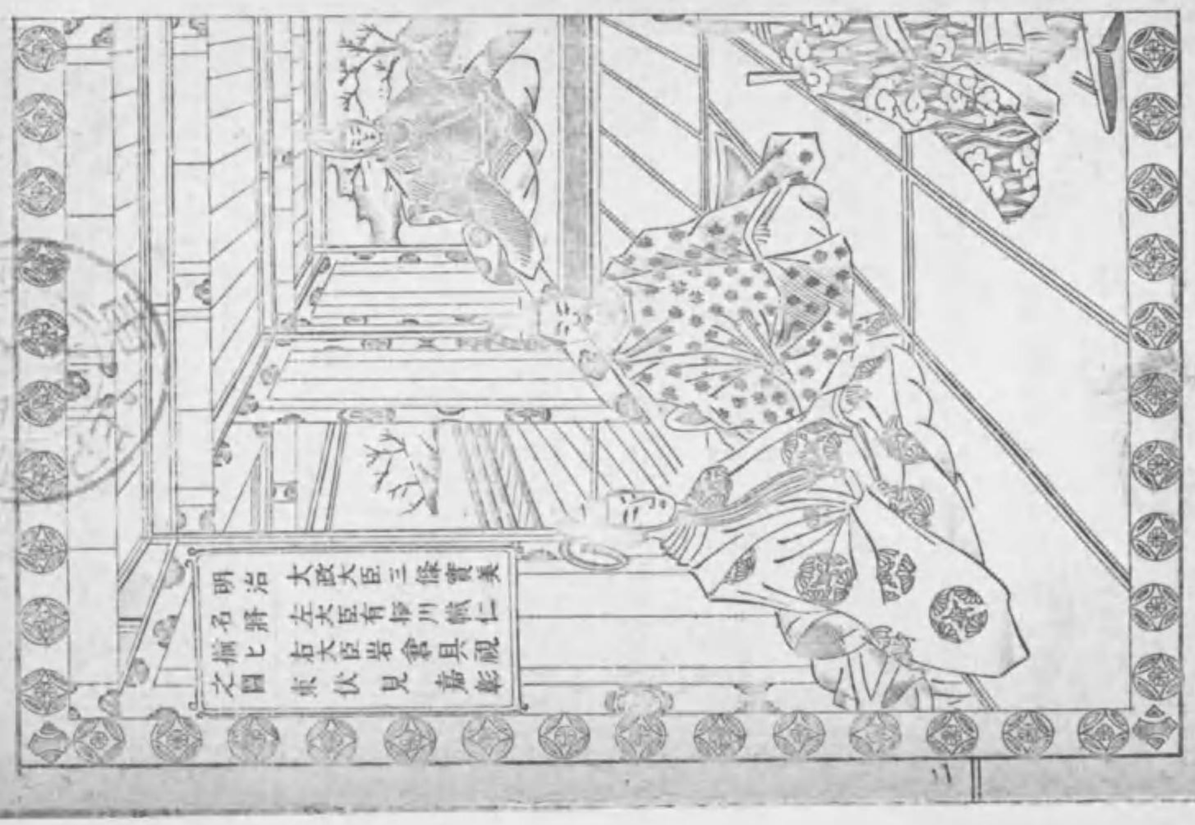
始

特64
656

大日本名將傳目録

第卒勞蘇大

天尊　戸
素戔嗚尊　小野好古朝臣
神武天皇　田原藤太秀郷　右大將源頼朝
道臣尊　常陸掾平貞盛　九郎判官源義經
源頼光　北條泰時
最明寺時頼入道
上毛野八綱田　多田滿仲　足利尊氏
日本武尊　源頼信　新田左中將義貞
神功皇后　源頼義　楠廷尉橘正成
大將軍田道　八幡太郎義家　足利義滿
大伴金村　新羅三郎義光　東山義政
大伴狹手彦　平惟茂　北條氏康
屈戸皇子　六條判官為義　武田太膳大夫晴信入道
中臣鎌足　源三位頼政　上杉輝虎入道謙信
阿部比羅夫　平相國清盛　毛利元就
坂上苅田麻呂　左馬頭義朝　織田右大臣平信長
坂上田村麻呂　鎮西八郎爲朝　豊臣秀吉
文屋綿麻呂　小松内大臣重盛　德川家康公
六孫王經基　木曾義仲　德川家光公


明治
大政大臣三條實美
左大臣有栖川熾仁
右大臣岩倉具視
之摘名ヒ肝
東伏見
嘉彰

天照皇大神大の巖戸
ゝ隠れさせたまひ世
の中常闇の如く
ありけれバ八百
萬の神たち
巖戸の
前ゝ集
ひ神いさめ
の神樂を奏
臼女命舞かなひ
けれバ大神扉を
少しく開きたまひて
ゝ面白やとのたびけるゝ
手力雄命其扉を取て投
あひゝゲ遥かゝ飛て信濃ゝ及ゝ止る依て
戸隠ゝ明神と申し奉る

伊弉諾尊の子天照大神の弟ゝ
ハ暴の髭を生じて勇悍
新嘗の祭の宮ゝ
溺汰し太神の
自ら
神服を織
ゝ属て天の班駒を剥諸を
其室の口ゝ投入る罪ゝ
固て
出雲ゝ謫くれ嶽の
上ゝ至り脚摩乳
手摩乳の女稲田
姫を助けて頭尾皆
ゝハつある妖蛇を斬り
是を斬ゝ尾ゝ
至り剣の刃少し缺るゆ剣
見れバ一の宝剣あり乃ち太神ゝ
高天の原ゝ献ず叢雲の剣
尊遂ゝ稲田姫と婚
大社の神是なり
出雲の遺ゝ上れり

鸕鷀草葺不合尊第四の子御諱を神日本磐余彦
と申す天照大神より五代の孫日向国宮崎の都に天皇御幸
四十五諸皇子と師を率て
大和国畝傍山の東南橿原の都し正月天皇
位ふ即のひ年て改め
元年己未
六年三月崩ず寿一百
廿一
是を人皇の始とする
安藝に至り吉備を経
摂津河内を砲へ
和泉に長髓彦を討ず征し
依て頭八咫烏を郷導せて苑田に出ム
天照大神の夢想に
△凡猾を討ハ
梟を討兄磯城を討六十日
中州定り又

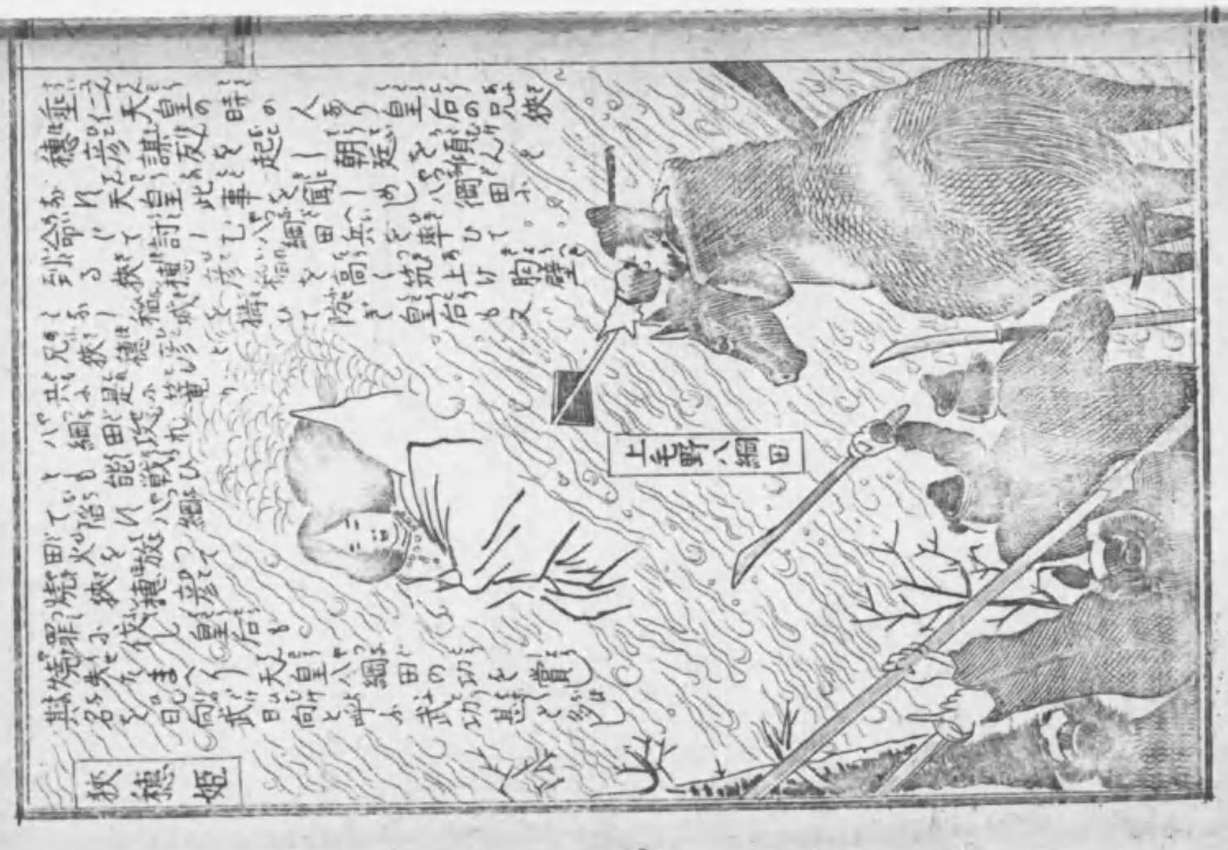
神武天皇

道臣命

命ハ神武天皇
日向より兵を発
して東方の国を
征伐ふ給ふの
際先鋒の元帥
たり皇軍長髓彦
を討ず位し道を矢づて
往こと能ハず時に八咫烏来
つて教導し命帥を率て
是に従ひ
遂に兄賊
を誅れる
ことを得たり。

○本朝武
将の雄輿
后氏を大
伴と称す又△

命の率ひたる兵
をさして物
部と号く
後世武士
をさして
もの〻ふと
いふハこの
説ふり


狭穂姫
上毛野八綱田

日本武尊

大伴宿禰田麻呂

神功皇后
武内宿禰

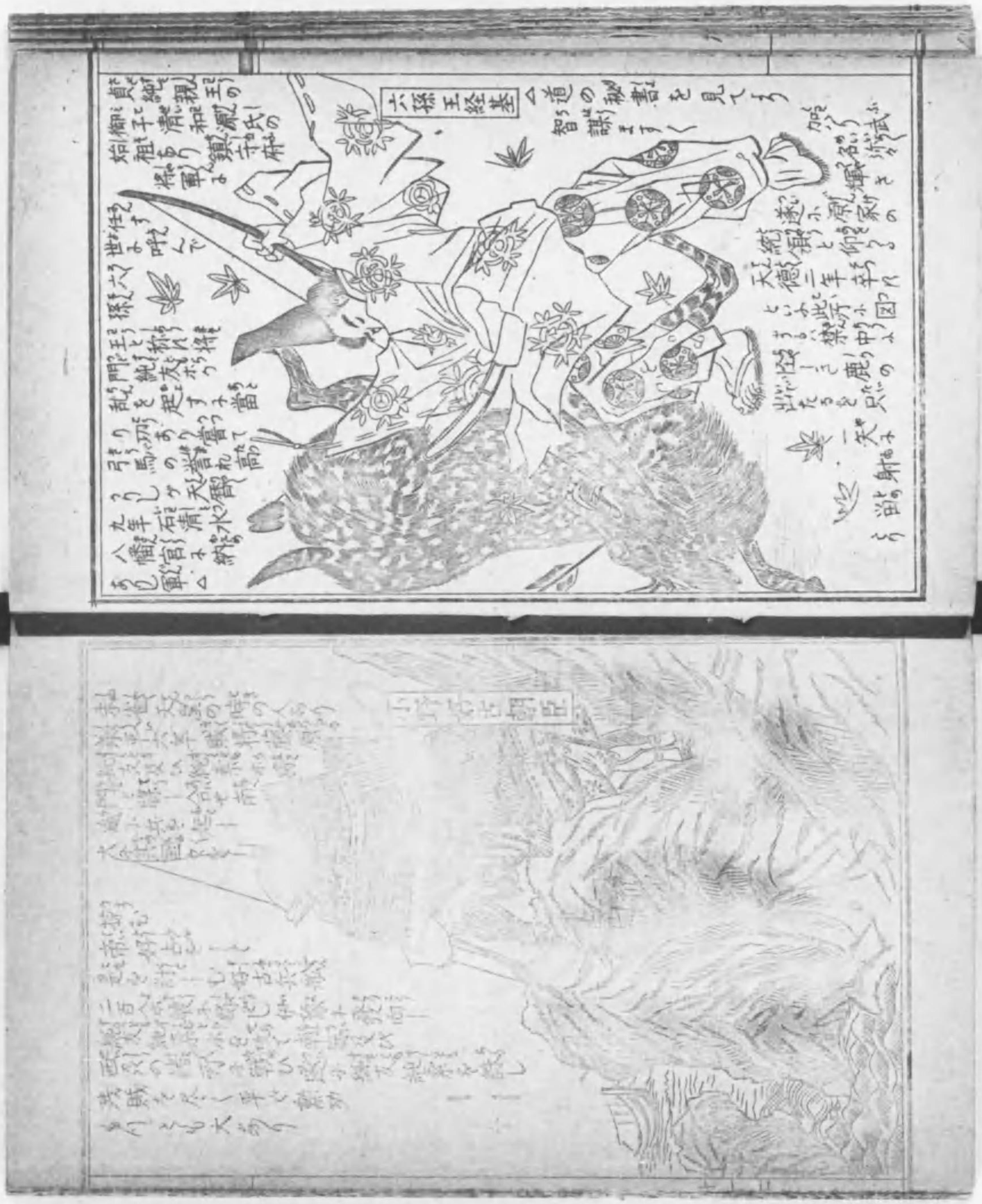
仁賢天皇の時の人あり
宿禰と号け帝崩御
あらせられ太子未だ定
らず平郡の真鳥是を
機として帝位を奪ゐんと
し太子小泊瀬(武烈天皇)
金村を召て之を伐しむ
金村兵を率ひ真鳥及び
其子
鮪を誅
す當世
無双の勇
将なり武
烈帝崩御
の后猶継
體天皇に仕へて
名譽多し
大伴金村
大臣平郡真鳥

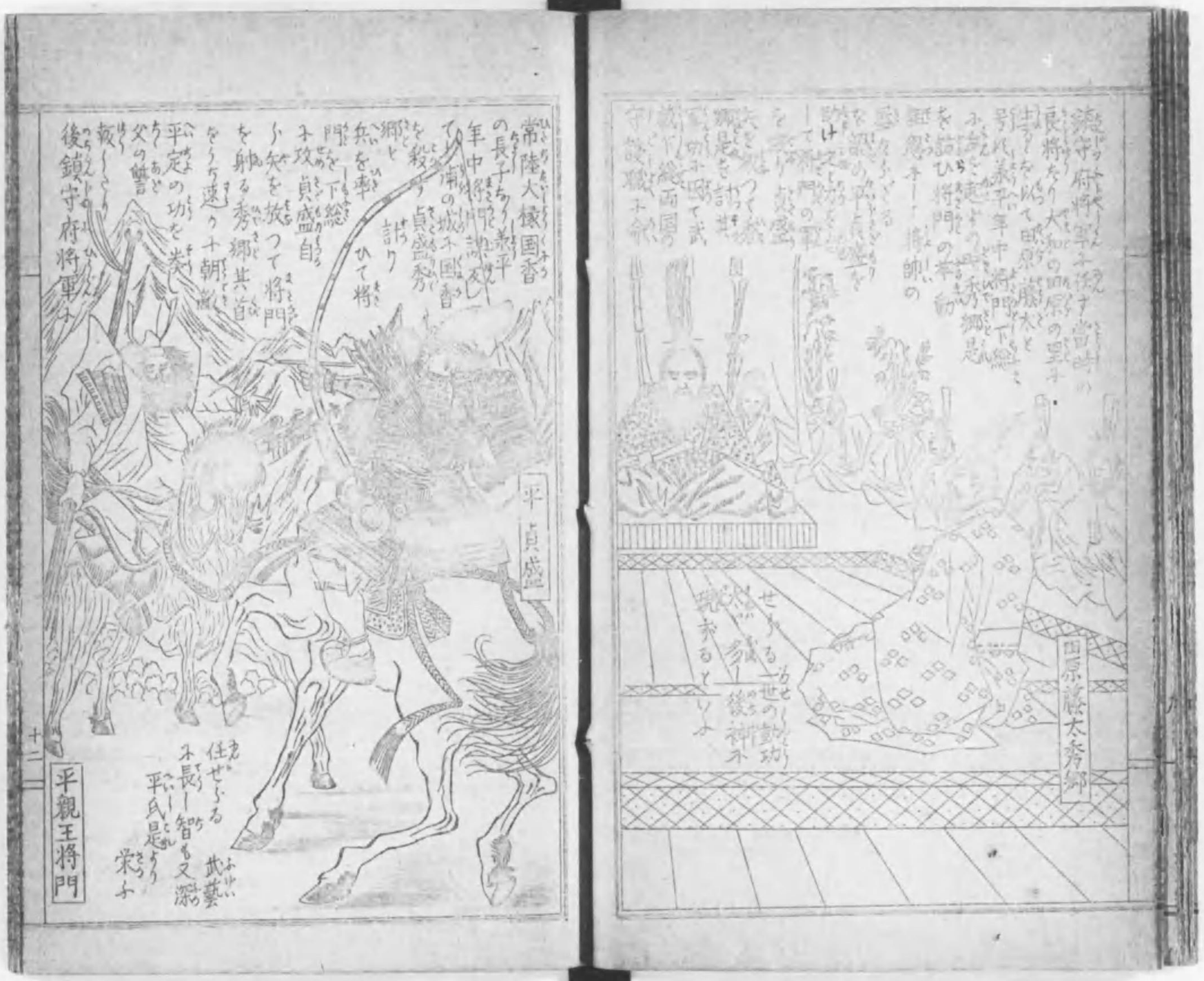
欠

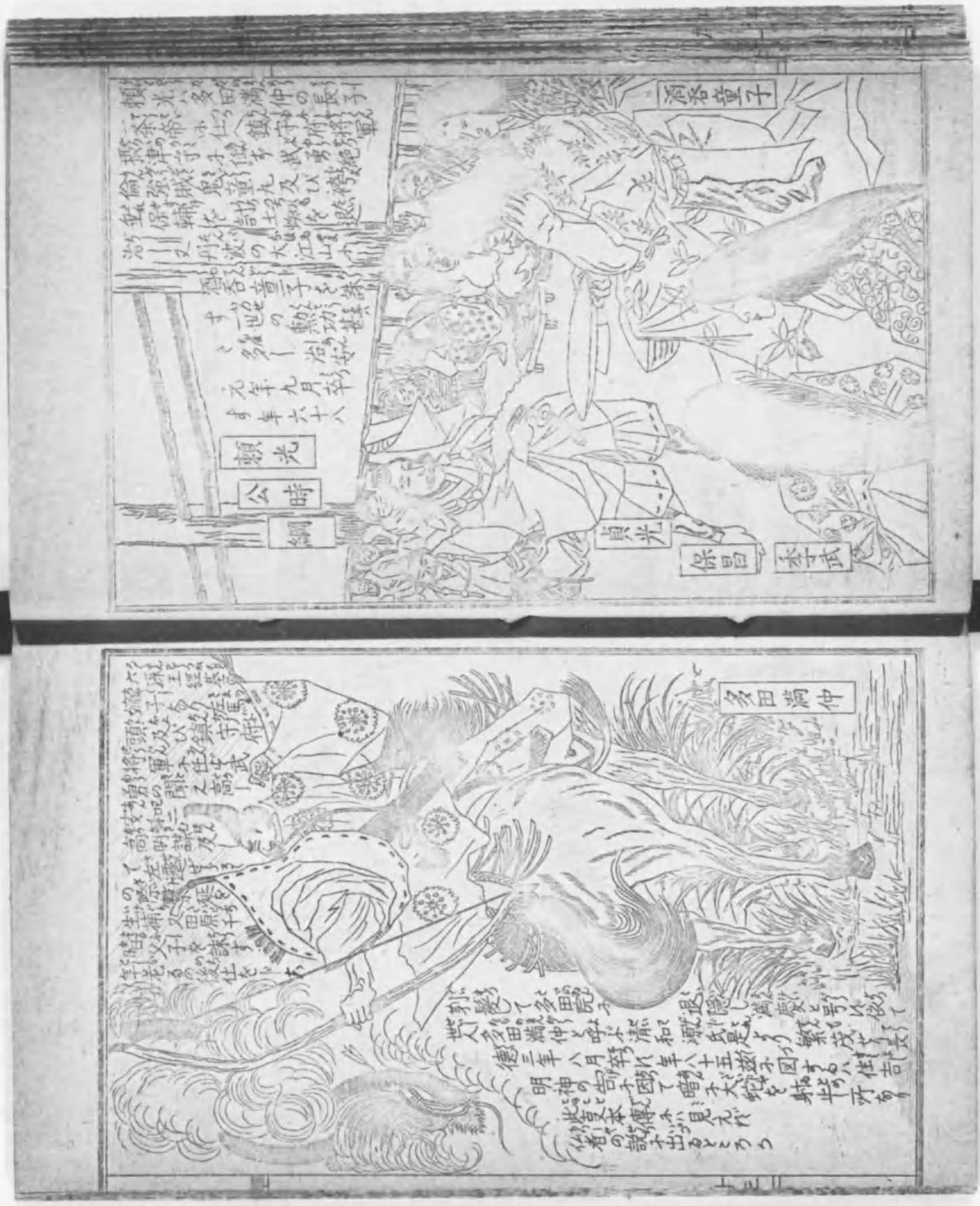
孝謙天皇の時の人田村麻呂の父引馬の達人なり恵美押勝謀反して天皇を弑せんとするを拉ミ兵を率ひて之を誅し自ら引矢を取て押勝の子訓儒麻呂を射殺す後引削道鏡世を乱くとしるを際し早く其件を光仁天皇奏して道鏡を捕へ下野国へ流す忠節戦功甚だ多鎮守府将軍に拜す

欠

坂上田村麻呂
田村大神
坂上田村麻呂


六孫王経基
智の道の秘書を見てう
天正統徳三年そうの冬の
加賀の武


鎮守府将軍を任ず當時の良将なり大和の田原の里に生まれ藤太と号し義平の年中将門下総を討ひ将門の首を給ひ走よりの恩賞を賜ひ将帥の才能を顕す
田原藤太秀郷
常陸大掾国香の長子なり義平年中将門謀反して武蔵の城を国香を殺す貞盛秀郷と計りひて将門を下総に攻む貞盛自ら矢を放つて将門を射る秀郷其首をうち速に朝敵平定の功を奏し父の讐叛逆を後鎮守府将軍に任ぜらる武藝に長し智も又深し平氏是より栄ふ
平貞盛
平親王将門


多田滿仲
源頼光
源公時
渡辺綱
碓井貞光
卜部季武
坂田金時

源頼信

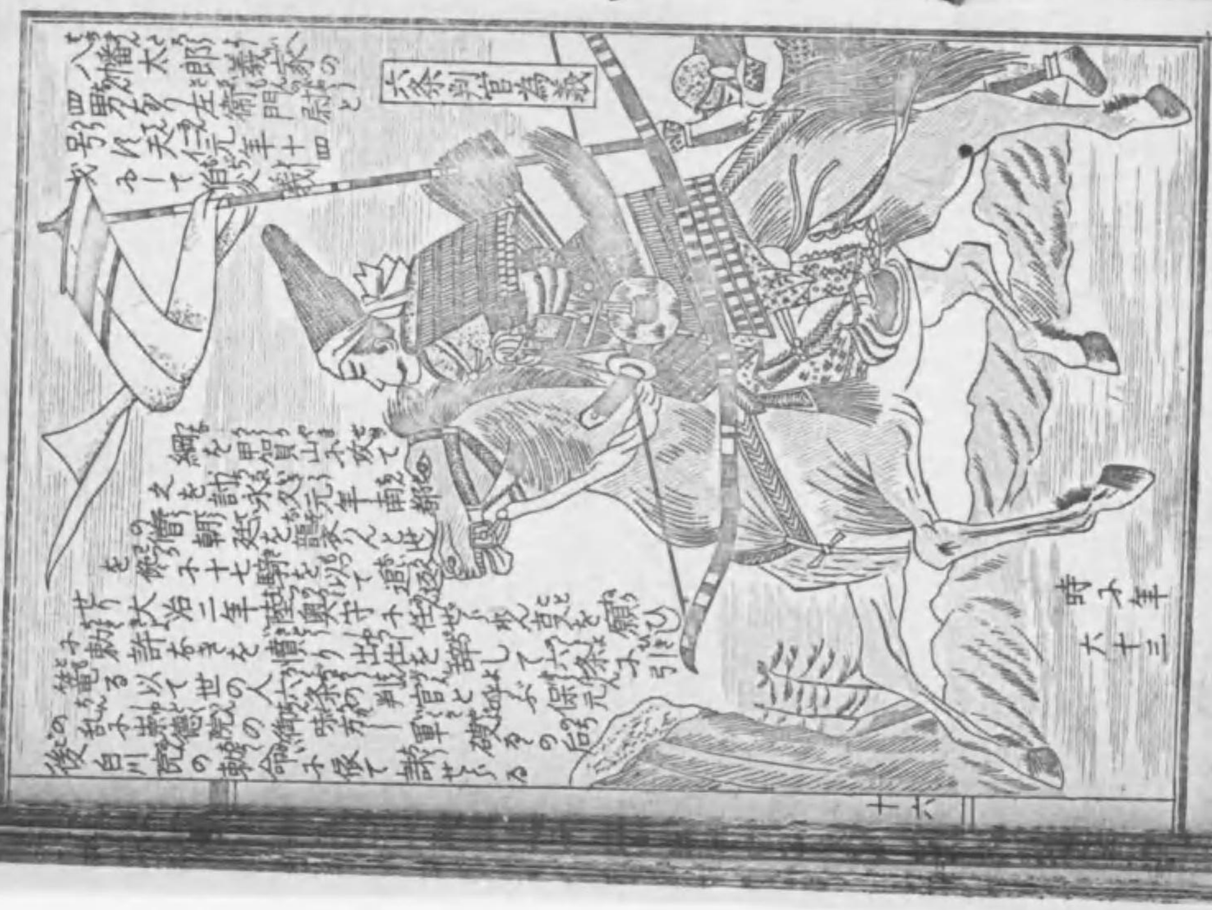
源頼義

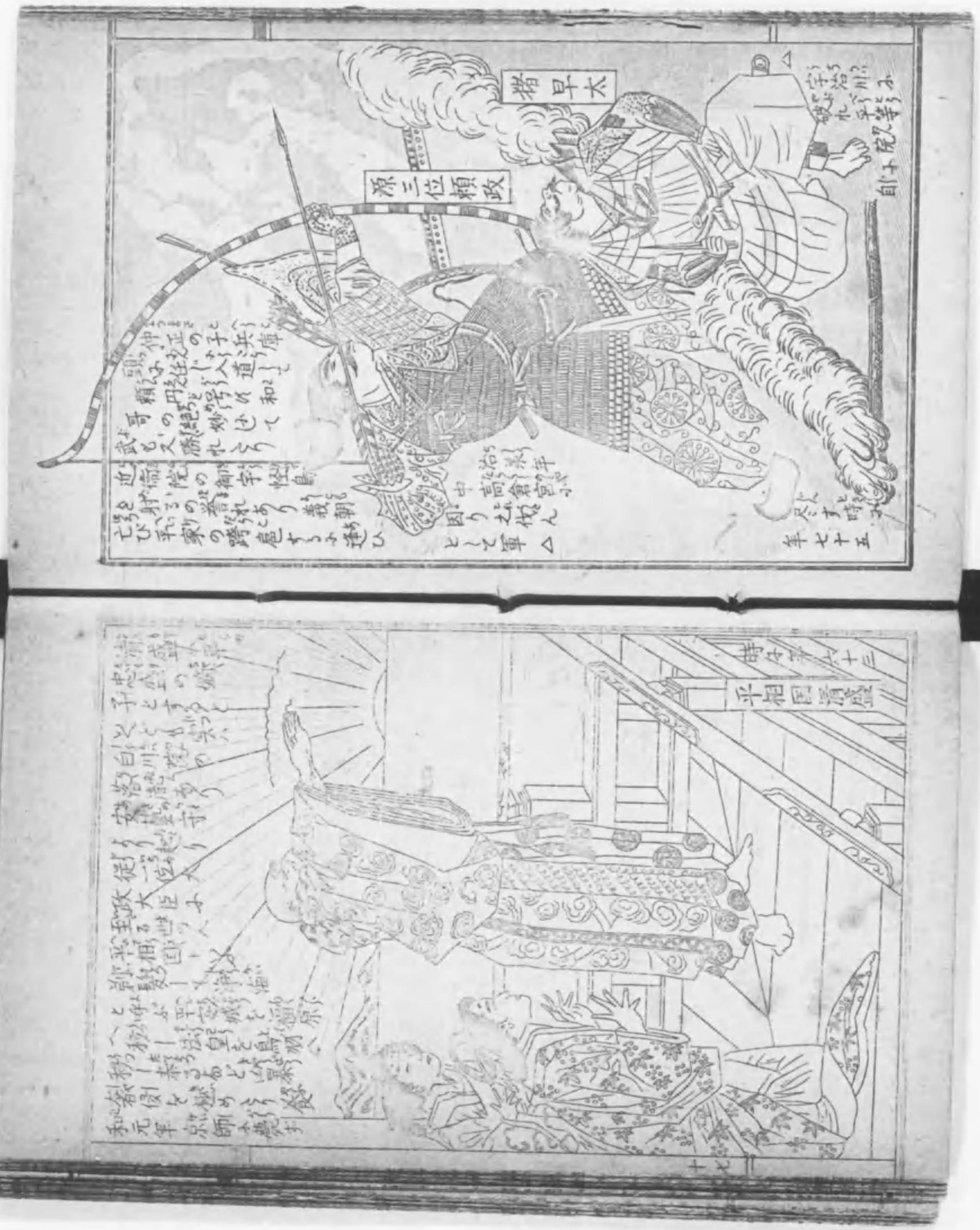
八岐大蛇

豊原時秋

源義光

平惟茂


六条判官為義
時子年十三


源三位頼政
木下部
白川院
五十七代

為義の長子左馬頭と
号す東海道十ケ国の
惣領なり強勇双ぶ
者なし保元元年
の戦破れ尾張の野
間の住不落
行長田が
為義朝内
義朝
為義を殺ハ
父と世しを
頼信
叛逆を
與し六
波羅
治元年

為義の
八男なり
身の丈八
尺五寸大
力じて能強
勝れ剛年れして
父を追れ禁獄
年十三九州
鎮西とは保元の乱
崇徳院に属し功あり軍破るの后
江及ぶて生捕れ伊豆の大島
に流され又大島を奪ひけ
ること十余年嘉応二年狩野
茂光勅を受て是をせむ為
朝矢を放つて自尽し時に年三十三
或ハ異
国へ渡り

小松内大臣重盛
清盛の長子なり小松谷に住す因て人
小松殿と呼ぶ
殿さまと平治の
逆臣を討て勲功あり
治承五年熊
野本宮に参詣し後不食の病
に罹り悪瘡を加へて死す
時に年四十三重盛風に平氏の運の
傾くことを計り知り唐土の
王山へ黄金を贈り一族の後世
を弔ふ為にとゝ今其俗説
に因て茲に図す

為義の孫義賢の二子
なり義賢義平の為に
殺さるゝに位く三戈して
信川に遁る故に木曽冠者
と号す長ずるに及んで将器
あり頼朝ゞ東国に兵を挙ると
聞き共に信州に発り城長
茂を筑ゞ川に破り平氏の
十万を砥波山に伐滅し
京師に入て平氏を津の国
に走らせ自称して旭将軍
と号す然れども兼暴の夏
多きを以て朝廷頼朝に命じ
範頼義経をして之を討
木曽義仲
義仲戦ひ数回東軍
を破るとゝ雖ども克
江及び宋津に
敗北
太夫坊覚明

五十九
義経左右に東西の朝敵の頭を見て、
被や治が号令、
れ軍が手
矢衛門佐と
流伊豆守清盛
梶宗
沿義田
同義経
古大将源頼朝
右の山の山を分て攻
大内平の平の
追補使日本
五十九
弘仁十年
時平
五十九
成り手に田を
謀り及ひ其ら呂うと共も及ひ
上の人
呂の手
寇の
平の
武の
大将軍
義経

欠

六孫王経基
△道の秘書を見て
智謀ますく
貞純親王の
御子清和源氏の
始祖あり鎮守府
將軍る
任す
世よ呼んで
六
孫
王と称れ將
門純友ホう
乱を起すヲ當
り功あり嘗て
弓馬の誉れ高
うしゲ天爵
九年石清水
八幡宮ヲ納
あ已軍△
加ふ武
名ゆ〳〵
る輝き
遂ふ源家の
統領と仰ぐる
天徳三年辛巳
といふ此所ふ図
する八禁中ヨ
怪しき鹿の
出たるを只
一矢ヲ射
留め

足利義滿公
尊氏の孫義詮の子あり康安元年山名清氏謀反ありし
義詮江州に没落す時に義滿四歳赤松の邸に忍び明年京師に入家跡を継明徳二年終に山名以下の者を伐て世上や穏なるを得職を嫡子義持に譲り北山の別業に金閣寺を造り剃髪して道喜と号し将軍をして公方と称せしめ此道喜を始め應永十年薨ず年五十二

欠

義教の次
男あり嘉吉三年
兄義勝早世に依て
家督を継八歳にして
征夷大将軍に任ずこの時
諸国乱れ足利氏の威権震ハ
ず就中應仁元年より文明五年に至る
各戰止時なく義政政務をつゝれ
東山に閑居し以て世の人東山殿といふ此所
に因する香炉を祝して下河原に
員せり濫觴あり延德三年薨す
千鳥をきてさまるて
千鳥の香炉の名を
東山義政
時に年五十六

氏綱の嫡子左京太夫と
享禄元年十六歲にして
上杉朝興と戰つて是を
破る
天文
北条氏康
六年
朝興病死するに依て朝定を
追ひ其地をうばふ后両上杉の兵
十万を八千人にて破る是を世に称して
川越の戰ひといふ又上杉兵を発し向ふ所勝ざること無く終に関
八州を暴し勇威を近国に震ひしかり元亀元年十月卒す時に年五十六
二十四

武田大膳大夫晴信入道信玄

信虎の長子法名を信玄と
号す年十六にして平賀源心
を計り武名をあらはす后父信
虎を駿府へ追ひ諏訪村上を
破る信玄を侮呑し長尾輝
虎と戦ひて年あり又今川
氏定を走らせて駿府を取
とり武略謀計図に當るといふことなし

嘗て遠江三州の兵
を向け野田の城
を攻るに
くさむらに
虫の音を聞んと
しかば敵
矢を射あてり
天正元年四月卒
年五十三

長尾為景の次子
家を相続す武勇
絶倫嘗て村上義
清に依頼され
信玄と戦ふ
こと数年

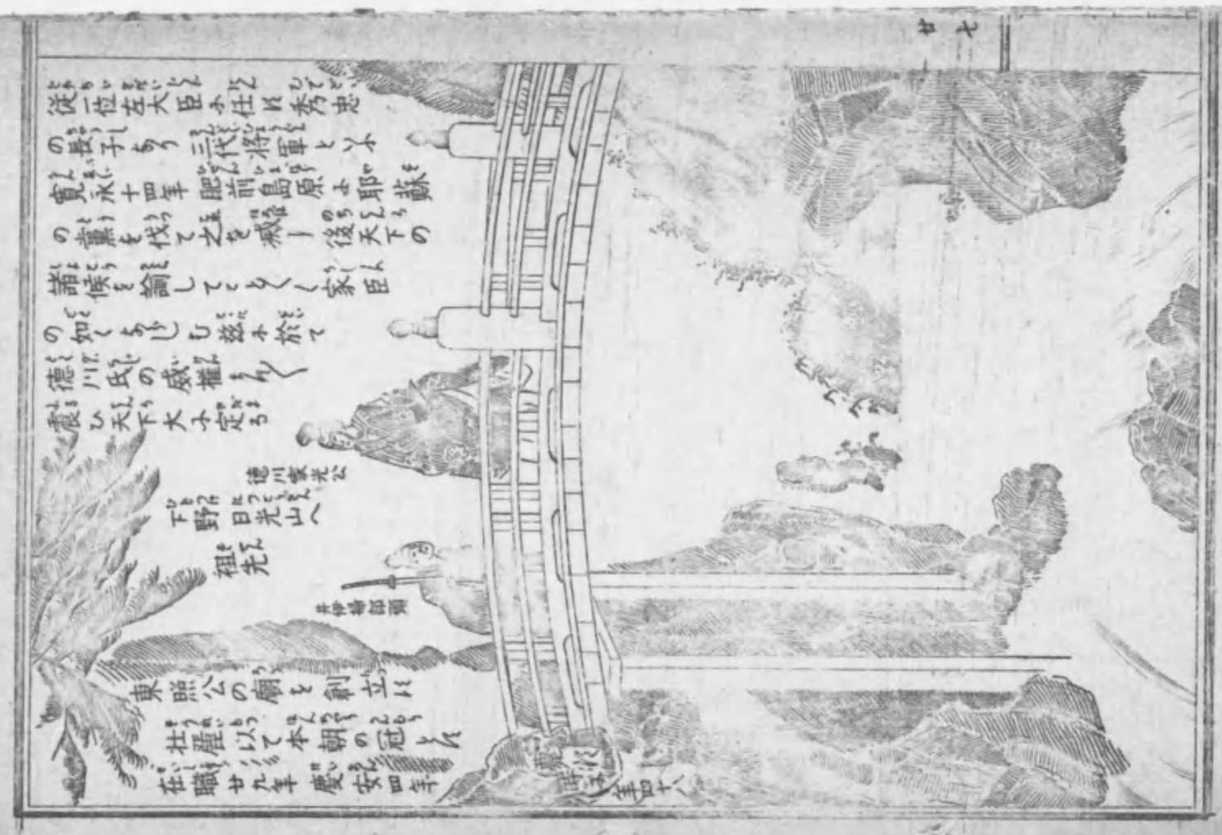
薙髪して謙信と
号し上洛して輝の
一字を将軍より
賜はり関八州
の管領職を任じ
北条氏康と数回戦ふ

上杉輝虎入道謙信

后信長と伐んと本国
を出発し旅中頓死
す時に年四十九

毛利元就
織田右大臣平信長

大政所
豊臣秀吉公
加藤主計守清正
徳川家康公


東照公の廟も創立は
在職廿九年慶安四年
徳川家光公
祖先
下野の日光山へ
震徳川氏の威權もかゝ
ひ天下大平定まる
諸侯を論してことゝ家臣
の意を慎も代て之を減ぶ
寛永十四年肥前島原
の賊子ら三代将軍と
從一位左大臣
寛永十四年

明治十七年十二月廿六日御届
同年十二月廿七日出版

定價貳拾錢

編輯兼出版人　東京府平民　伊藤倉三
日本橋区蠣殻町二丁目十壱番地

大賣捌

横山町三丁目　辻聞屋文助
南鍋町　兎屋誠
横山町二丁目　鶴聲社
南傳馬町一丁目　春陽堂
両國薬研堀町　鈴木喜右衛門

終